



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	令和5年度 特別養護老人ホーム 第二白寿園増築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		<b>3.5</b>		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水VP(B)、排水VP(B)、給湯HT(B)、Eは不使用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI<sub>m</sub>=0.73。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 ⑫LGSとGL工法を使用している。 ⑬ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率88%</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調、給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		<b>3.6</b>	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		<b>3.1</b>	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳0.1≦[壁長さ比率]&lt;0.3</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		<b>2.5</b>		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。</p>	Q-3 1 ⑥ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑥ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	令和5年度 特別養護老人ホーム 第	階数	地上3F
建設地	静岡県磐田市掛塚字竜光寺3160-1	構造	RC造
用途地域	地域指定なし、防火地域 指定なし	平均居住人員	90 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年02月18日
敷地面積	4,496 m <sup>2</sup>	作成者	飯尾 哲秀
建築面積	1,030 m <sup>2</sup>	確認日	2023年04月04日
延床面積	2,709 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木新一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合		その他
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 利用者配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 2.5% ≤ [屋光率]共用部、1.25% ≤ [屋光率]分住居部分。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上。 ビル全体の禁煙が確認されている。	<b>Q2 サービス性能</b> 給水VP(B)、排水VP(B)、給湯HT(B)、Eは不使用。 住居・宿泊部の天井高2.5m以上。 建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> BPIm=0.73。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとGL工法を使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率88% 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照 明は行っていない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される